



やこう

学校だより 令和8年度4月号

令和8年4月7日
横浜市立矢向小学校

ホームページはこちらからどうぞ→

www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yako/



子どもの幸せのために

校長 沼田 留美子

新校舎工事が着々と進む中、矢向小の桜も見事にたくさんの花を咲かせました。工事の景色の中ですが、校内の花々や新芽は心を癒してくれます。まさしく「匂う桜の校章ゆかし」。桜の花を見るたびに矢向小の今年のスタートと子どもたち、矢向小にかかわるすべての人たちの幸せを祈らずにはいられません。今年度は夏に新校舎への一部移転と1棟4棟の解体が行われる予定です。それに伴い教室配置の変更があり、年度末に1～5年生が机椅子の大移動を行いました。懸命に机や椅子を運ぶ1年生やそれを気遣う5年生の姿が見られ、どの学年の子どもも頼もしく感じました。教職員も春休み中に力を合わせて掃除をし、床も磨き、気持ちよく新年度を迎えられるよう心を込めて準備をしました。始業式前日の6日には最高学年である新6年生が登校し、「わたしが、みんなが輝く、矢向の森」の実現に向け、1～5年生が気持ちよく登校できるよう学校づくりに参画していました。多くの人に支えられながらスタートできることをうれしく思います。

いよいよ、令和8年度が始まります。お子様のご入学、ご進級おめでとうございます。「成長することは変わること」。この節目でみんなが一步成長しています。この4月はどの子も「こんな自分でありたいな、こんなことを頑張ってみたいな。」という願いを普段以上にもっています。これは大人も一緒です。「誰かが叶えてくれるのではなく、夢は自分で叶えるものだ。」と私も先輩から教わってきました。自分が考えて、決めて、行動し、振り返ることの繰り返しで自分の行動に責任をもち、さらに一步前進していくことができます。

3月に発表された第5期横浜市教育振興基本計画にも子ども一人ひとりが「未来」を創るために必要なこととして「自分の人生を舵取りするたくましさ」が挙げられています。矢向小学校では「本音、本気、本物」の学びを柱に、自分事として学習に向き合う、多様な人とつながる、生活づくりに参画する主体的に行動する子どもを育てています。つまずきそうな石をあらかじめ拾って、安全な道だけを歩くことが、必ずしも子どもの幸せにつながるとは言いきれません。自転車に乗れるようになるまで何度も転んだ経験をされた方も多いのではないのでしょうか。自分から何度も自転車をまたぎ、あきらめずに何度もペダルをこぎ、転びつつ、支援者がタイミングを見て自転車から手放すからこそ、一人で乗れるようになったことともつながります。悲しいこと、つらいことなど困難なことに出会ったときに、自分なりに考え、乗り越え、挑戦し続けるからこそ、悲しんでいる人を想う心や多少のことではくじけないたくましさや育つのではないかと考えます。

今年度も子どもたちはまちに飛び出し、たくさん学びます。まちの宝である矢向小の子どもたちが学校、地域など社会とのつながりの中で育ちます。学校、家庭、地域が力を合わせ子どもの幸せのために矢向小を共に創りましょう。今年度も教職員一同子どもたちのために力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願ひします。